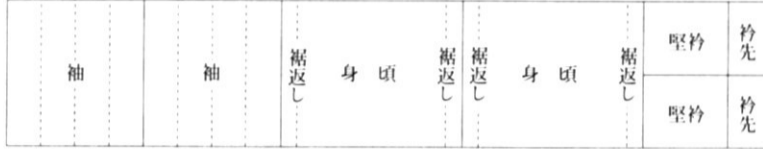


(1) 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよくわかるように記入して裁断図を書きなさい。(裁ち切りは実線、折り山等は点線で記入)

(配点各問6点)

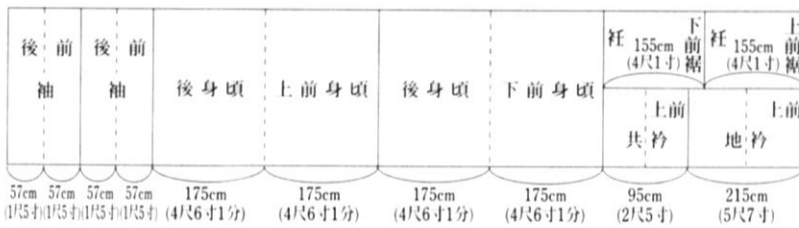
①並幅物12m (3丈1尺7寸) で本裁女物、袖無双、別衿長襦袢を作りたい。
裁断図を記入しなさい。



②並幅物12m40cm (3丈2尺6寸5分) の反物で本裁女物長着を下記寸法で追い裁ちにしたい。裁断図と各部の寸法と名称を記入しなさい。

身丈背より出来上がり165cm (4尺3寸5分)・袖丈出来上がり53cm (1尺4寸)
繰越3cm (8分)・裄下(衿下)出来上がり81.5cm (2尺1寸5分)・他は標準寸法とする。

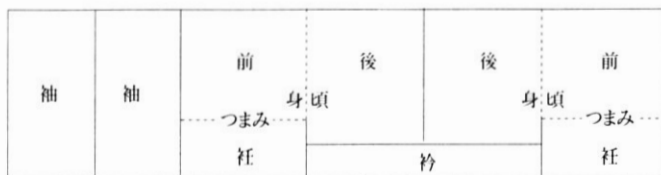
(注) 袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衽裾などの位置を明記すること。



③並幅物3.2m (8尺5寸) の裏地で、女物長着の裾回し(八掛)を裁ちたい。
裁断図を記入しなさい。



④並幅物8m (2丈1尺1寸) で四つ身長着を作りたい。裁断図を記入しなさい。



⑤並幅物12m (3丈1尺7寸) の表地で二部式雨コートを作りたい。
裁断図を記入しなさい。



(2) 次の各問の文章が正しい場合には○印、誤っている場合には×印を所定の位置に付けなさい。(配点各問2点)

- (○) 1. 草木染めとは、植物の花・草・樹皮などの染料で染色したものである。
- (○) 2. シルケット加工した木綿は、絹のような光沢がある。
- (○) 3. 麻繊維は植物繊維のジンビ繊維である。
- (○) 4. 一越ちりめんとは緯糸に左撚りと右撚りを交互に織り込んだもので、二本おきに織り込んだものを二越ちりめんという。
- (×) 5. 色の三原色とは、色相、明度、彩度である。
- (×) 6. 家蚕の繭糸1本の太さは約15デニールである。
- (×) 7. 絞り柄には多くの種類があるが、鹿の子絞りと疋田絞りはまったく同じものである。
- (×) 8. 唐草模様は日本古来のものである。
- (×) 9. 茶屋辻模様は全体が茶色系の一色染めである。
- (○) 10. 魚子織織 (ななこおり) は平織りの一種の帯地である。
- (×) 11. 男物長着の内揚げの位置は後ろより前を低くするのが普通であり、その位置は帯の下に隠れるような高さが良く、普通、肩より測って着丈の5/10位下がった位置が適当である。
- (○) 12. 男物の袴の紐下とは、前紐の下部から裾までをいう。
- (○) 13. 表袴、指貫、馬乗袴などは昔の袴であるが、そのうちの馬乗袴は現在のマチ付袴に近い。
- (○) 14. 都衿コートの小衿布は普通80～95cm (2尺1寸～2尺5寸) 位の丈をとっておく。
- (×) 15. コートの袖丈は、着物の上に着るから着物より長くする。
- (○) 16. 被布衿コートは普通、マチを付けないで仕立てる。
- (×) 17. 女物長着の袖の柄は普通、右前、左後ろにポイントをもってくる。
- (○) 18. 衿を多く抜いて着付けをする人の着物の袖付けは後ろを少なくする。
- (○) 19. 裁ち切り衿肩明寸法＝(首回り)×1/4+ (背縫い代) である。
- (○) 20. 柄裁ちをする場合、長着は上前の前身頃および胸にポイントをおき、羽織は後身頃にポイントをおく。
- (○) 21. 1反の反物から羽織を2枚作るとき、前身頃より衿を取る場合は背縫いが深くなるから、必ず衿を測ってから裁つべきである。
- (○) 22. 羽織の鉄砲付けは、返し口を衿肩回りに開ける方法と肩山と紐付けの間に開ける方法がある。
- (×) 23. 女物綿入れ長着の寸法、要尺、裁ち方、標付けは女物袷長着と同じではない。
- (○) 24. 留袖(詰袖)とは既婚婦人の正式礼装で、黒字に五つ紋付の裾模様の二枚重ねをいう。
- (×) 25. 打掛は掛衿(共衿)と袖口布を付ける。
- (○) 26. 長襦袢の後身幅、前身幅は通常、着物より広くする。
- (○) 27. 女物長着の裄下(衿下)は普通、身長1/2を標準とするが、打掛、掛下、踊り用引着、婚礼用部屋着などは、衿丈の基準が決まっているので、それを基準として裄下寸法を計算してから決める。
- (○) 28. 一つ身紋の位置は、背紋下がり(衿付けより) 4cm (1寸)、袖紋下がり(袖山より) 6cm (1寸5分)、抱き紋下がり(肩山より) 11.5cm (3寸) である。
- (○) 29. 覗き紋とは、丸い輪(陰)の下部または上部に紋の一部を覗かせた紋である。
- (○) 30. 胴回り90cmの人の名古屋帯の手丈は255cmほどが適当である。
- (×) 31. 袋帯や名古屋帯を締めるとき、胴(手)は「わ」を上にして締める。
- (×) 32. 子供物着丈は身長(6/10)を標準とする。
- (○) 33. 四つ身裁ち羽織の衿は、前身頃を輪にして前身頃よりとる。
- (×) 34. 照度を表すルクスは、その数字が大きくなるほど暗くなる。
- (×) 35. ミシン針は表示数が小さくなるほど細くなるが、針丈は変わらない。和針の表示数は前の数が多いほど太く、後の数が小さいほど針丈が長くなる。